

平和

杉下小学校 六年 池田 竜大

僕は、学校の授業で東松山市にある埼玉ピースミュージアムの出前授業くピースキャラバンで戦争について学ぶことがあり、戦争のことをもっと詳しく知りたいと思い、広島市平和記念式典児童派遣事業に応募しました。

八月五日と六日に広島市に行つて戦争の怖さを知りました。

平和記念資料館では、焼け焦げたお弁当や三輪車、服や溶けたガラスなど多くの物が展示されていて、当時の悲惨な状況が伝わってきました。特に印象に残ったのは、「三輪車です。三輪車に乗っていたのは当時三歳十一か月の伸一ちゃんという男の子でした。八月六日の朝、家の外で三輪車に乗って遊んでいるときに被爆したそうです。大けが、大やけどを負いその夜、亡くなりました。伸一ちゃんのお父さんは伸一ちゃんが独りぼっちで公墓に入るのはさみしいだろうと思い、一緒に

庭に埋めたそうです。四十年経って掘りおこ	し「三輪車」を平和記念資料館にあずけまし	た。	たった一発の爆弾で広島がたくさんの人	笑顔や日常が一瞬にして消えてしまいました	建物があつた場所は焼け野原になり、多くの	人が亡くなり、生き残った人々もやけどや放	射能の影響でいまだに苦しみ続けているそう	です。原爆の恐ろしさを知れば知るほど悲し	い気持ちで心が痛みました。	八時十五分、僕の日常は学校の教室で、友	達と話をしたり、遊んだりして楽しく過ごし	ています。当時の広島の人々にもそれぞれの	日常があつたはずなのに、突然の原子爆弾で	一瞬のうちに崩れ去ってしまいました。当時	の小学生たちは楽しい学校行事やたくさん	のお友達と話をしたり遊んだり、勉強をしたり	楽しい思い出は作れません。そして、家族と	の大切な時間も奪われました。それはとても	悲しいことだと思います。
----------------------	----------------------	----	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	--------------

僕の思う平和は、何気ない日常がいつも通りにくるのが平和だと思います。いつ爆弾がきてもおかしくない状況だと、とても不安です。今でも世界では、戦争をしている国がまだあります。いつかまた原子爆弾を使つた戦争が起きるかもしれません。

今回、平和記念式典に参加して、戦争や原爆の怖さ、平和の大切さを知りました。今までは、本でしか分からなかったことが直接、原爆ドームや資料館を見ることができて、とても勉強になりました。

この体験で平和の大切さを家族や友達、たくさんの人たちに伝えていきたいです。伝えていくことが平和な世界につながるはずですが、僕の力は小さいけれど、たくさんの人に話すことで大きな力となり平和への一歩になると思います。

「世界平和」を願う。

今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。